華岡青洲　医案④

泉州父鬼村、惣治郎が娘、行年十六歳。九月中旬に卒然として腰痛を発し、治を乞う。愚生行きて按ずるに、腫気無く、皮色変ぜず、熱勢なく、食気常の如し。唯、転倒すること能わず。

依って其の痛み打撲の如し。故に先ず主方越婢加朮烏加牛膝十五貼を投じ、大玄を貼すれども寸効なし。故に右の証を師に告ぐる。

師曰く、「此の如きの証。予、治療すること四五人。至って希なる証なり。此れは、即ち寒湿骨節に入りて発する証なり。主方五積散に桃仁茴香を与えて間々効あり」と云云。即ち其の方十五貼を投じ、兼ぬるに雲母煎を以て蒸し、忽ち全治せり。